

こかん様に続く会を終えて



かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311

笠岡大教会 創立110周年

三年千日スローガン
論達を實踐し、をやの理を戴こう
本年の實踐項目

- 一、おさづけの取り次ぎ
- 一、陽気ぐらし講座と百万軒にをいがけ
- 一、一万人のおぢばがえり

六月二十三日から二十四日にかけて、こかん様に続く会をさせて頂きました。今年は大教会創立百十周年の旬の年で大教会長様より一人おぢばがえりのお打ち出しを頂いております事と委員・会員さんの中から十三峠越えをしたいという声があったので十三峠を越えて歩いておぢばへ帰らせて頂くとういう事になりました。こう決まったものの女子青年委員のメンバーも変わり新体制での初めての行事なので大きな不安もありました。参加して下さる会員さん一人ひとりに喜んでもらい、この道につながってもらうかを考えたら私達委員の御用がすごく大切だという事の自覚、また、長い道中精神的にも体力的にもしんどいという事。でもしんどい思いをした分必ず大きな喜びがあると信じてこの日を迎えました。会員さん二十九名、婦人会・青年会合わせて四十三名で雨の中歩いておぢばへ帰らせて頂く事が出来ました。身上者なく皆無事に帰らせて頂いた事、親神様・教祖の御守護を感じずにはいられません。また途中で雨が大降りになり、交通量も多く、疲れもピークに達してきたので参加して下さってる会員さん

に喜ぶどころか嫌な思いをさせてるのではないかとバスに乗る事を勧めましたが、みんな「ここまで来たからには歩く。」と言ってくれて最後までみんなで歩く事が出来ました。私自身、足がちぎれそうな程痛かったですが一緒に歩いてくれた委員・会員さんのおかげで頑張れました。神殿に着いてお礼参拝をさせて頂いてる時は、達成感・充実感でいっぱいでした。この時は皆同じ気持ちで一手一つにお礼のおつとめをさせて頂きました。二日目には、おぢばの会員さん七名も加わり、支部長様からこかん様についてのお話を頂き、お昼は青年会の方の協力をえてパーベキュー、その後ゲーム大会で交流を深め、楽しいひと時を過ごしました。一緒に歩いて下さった支部長様、婦人会・青年会の方々、また今回初めて会員として参加して下さった旧委員さんのお力添えを頂いて無事こかん様に続く会を終えさせて頂く事が出来ました。

反省点はたくさんありましたが次の行事に生かせるよう頑張ろうと思います。今思えば当日雨が降っていた事を不足に思いましたが、この雨のお



降り出した雨も何のその……笑顔満面でこかん様に続こう!!

かげで最後までリタイヤなしだったと思わせて頂きました。これももし晴天だったら暑くてしんどい子が出ていたのでは……。何もかもが御守護でした。本当にありがたかったです。

また十一月三日には、本部中庭で女子青年大会が行なわれます。一人でも多くの会員さんを誘っておちばがえりさせて頂くつもりで委員一同頑張らせて頂きますのでどうぞよろしくお願い致します。

婦人会笠岡支部女子青年部委員長

藤本ひさよ

学生生層育成者講習羽目云
お話し (抜粋)
(五月月次祭祭典講話に替えて)

本部学生担当委員会委員

中林 由紀子 先生

簡単に自己紹介をさせて頂きたいと思います。私共の教会は、立教159年、教祖110年祭当日に159番目の新しい大教会として陞級させて頂いたばかりの、その会長の家内でございます。

学生担当委員の御命を頂いたのが3年前になります。頂きました御用や行事の中の役目を必死でつとめさせて頂いておりますうちに、実に大切な御用を頂戴しているのだな、ということに段々と気が付き始めました。

▼若年層の育成

前真柱様が、若年層の育成を急務、急いで繋いでいくことが大切だと私達よぶぼくにお促し下さいましたことは、皆様も覚えておって下さると思わして頂きます。

昨年の10月26日、秋季大祭におきまして真柱様は、おたすけの出来る人材育成、これを私達自身が自ら育つ姿を見せて、そして成人する努力を促されまして、若い人との育成をしつかりと丹精するようにと、このようにお話し下されました。し

かも本年の年頭会議におきましても、昨年は論達実動の年であったが掛け声だけであったような気がする、と、余り実動

が伴わなかったのではないかというふうな御指摘を下されたように私は感じました。なぜなら、私自身が掛け声ばかりでしつかりとした声掛け(にをいがけ)が足らなかつたと反省中であつたわけです。

今日のように育成講習会に来させて頂きまして、「高校生に『はつぴすと』を手渡して下さい。」また、「学生一人一人月に一度は声をかけて下さい。」、「学生生徒修養会の参加者の丹精をお願い致します。」、「各教区では高校生セミナーが開催されていますので地域の高校生達に参加するように声掛けをお願いします。」、「大学生にはワーク&トークというのがありまして、信仰を深める企画がありますので声を掛けて下さい。」、本日配布している『ビジュアルはつぴすと・TOWERS』に全部詳しく書いてあります。

受験生の中学3年生は15歳です。15歳といえば、教祖から頂戴する証拠まもりも15歳までは親が代わって戴けます。おさしづに

さあく、小人くは十五歳までは親の心通りの守護と聞かし、十五歳以上はめんくの心通

りやとお教え頂きますように、15歳までは親が御教えを十分心に修め、子供に成り代わって日々真実の心を尽くさせて頂けます。



15歳以上はめんくの心通りですから、高校生にとつて中学生が高校生になるというだけでは無い。本人が意識するしなに関わらず、実は子供にとつて大切な門出、新しい人生の出発の時とも考えられると思います。

▼旬に心を掛ける

私共の家では、子供の(15歳の)誕生日がきますと、主人が我が家の救けて頂いた信仰の元一日、家のいんねんの話を聞かせます。

「今の結構な日々、当たり前のように思っているような事々も、親神様にお手引きを頂かれて、いんねんを自覚され、そして素直に人だすけに励まれて、いんねん納消の道をお通り下された初代さん以来、親から子、子から孫へとそれを伝え続け、そして後々の者の為に徳を積んで下さっているお

陰で今があるのや。もう15歳になったのだから、その徳に甘えることなく、自分の行動に責任をもつて自分で運命を切り開いて、間違ひなく日々を通るように心掛けていかないと、もし困ったことが起きてきても、親がいくら代わってやりたいと思っても代われないのだから、しつかりせよ。」と、このようなことを子供自身に理解が出来ているか出来ていないか分かりませんが、懇々と話を聞かせられます。

だからといって、15歳になったから、もう子供をほおつとくというようなわけにはまいりません。時には身上に、時には事情で悩む時もあるわけですが、すけれども、その身上が、その事情が、子供達の将来に、その節が生き節となるように親神様の親心を探り、そして事の解決に導いていくその姿勢がより一層大切になってくる年代でもあると思わして頂きます。

親と子の繋がりは、我が子だけではなくて理の子達にとつても、旬に心を掛け、しつかりと繋ぐことが生涯末代の繋がりになっていくのだと思わして頂きます。

▼道を通つてくれる子供

お互いに、子供達の大事な節目、節目に信仰の喜びを伝えていく努力をしていなかったら、子供は何も知らないんですから、いつまで待っても自覚も生まれませんし、また何かの節を頂いても、どのように親心を探ればいいのかということも解

らずに、せつかく親神様が下さったお手引き、節から芽を出すチャンスを失つてしまうことになつてしまふと思つたのです。

前真柱様は、「私達が親神様から預かつた自分の子供を、一人残らず道を通つてくれるような子供に育てよう、漠然と縦の伝道というのではなくて、自分の子供にこそしつかりと信仰の道を通つてくれるような子供に仕込もうということでありませす。これは私達の責任であるということをお互いに認識したのであります。どれだけ沢山の子供を親神様から授けて頂きましても、私達にとつてその子供達がこの道を通らずして、授けて頂いたをやの心に応えるということにはならないと言えるのではないのでしょうか。信念をもって我が子と同じく教子として、立派に道を通つてくれるように指導すること。その子の親として、一番関心を持つて力を入れなければならぬ問題であるということを通して新しい友を引寄せることと合わせて、いやそれ以上に大切なこととして心に治めて頂きたい。このことを心を放たず、日々考えながら道を通つて頂きたいと思つたのであります。自分のこととして考えて進めて頂きたいと思つたのであります。」このように私達にお話し下さつております。

▼十七才

先程お話し致しましたように15歳も子供にとつて大切な旬ですが、次に大切なのが17歳であります。

17歳になったら別席を運ばせて頂くことが出来ますが、17歳といってもそんなにいろいろな経験を積んだ年齢ではありません。人だすけの上に常識や経験が必要なわけではなく、純粋な若い内に純真な心で親神様の御教えを聞き分けて、教祖の手足となって御用にお使い頂けるように、との教祖のお考えではないかと思わして頂きます。

15歳までは親の信仰に支えられ、親の心通りの道を歩んできた子供達が、17歳になれば自分の心に責任をもって自我の目覚めと共に教祖にお使い頂き易いよふぼくなるような心の使い方・身の行ない方をしていく大切な年齢なんです。

自我が目覚め自己主張がしたくなる。その自己主張が周りの人を驚かすような行動にでたり、言ったり、今まで素直に親の言うことを聞いていた子が段々と反抗したり、喋らなくなったり、大人にとつて何を考えているのか、親でさえ我が子が解らないと感じる難しい年齢なんです、年頃なんです。

教祖が天保9年10月26日に「月日のやしろ」になられて、親神様の思召を人々に伝えられるようになられるまでの貧のどん底の最中、御苦心なされたのは、お子様達に、また、夫・善兵衛様に親神様の思召を解って頂くことに心を砕かれたのではないかと思わして頂きます。

教祖のひながたに、「水を飲めば水の味がする。親神様は結構にお与え下されてある」本当に米粒一粒ない、言わば苦勞のどん底の中でも喜び方を

お子様達にお教えなされ、そして根気よく導きお育てになっておられます。そのような子弟の育成のひながたがあるわけなんです。

氣長に親切に教え導き、態度に表し、そして口で説くだけでなく教祖の足跡を踏ませて頂く信仰生活が大切であり、子供はその親を見習ってまたついてくるのであります。

と、氣長に親切に態度に表す。これは二代真柱様が昭和40年の婦人会総会の時にお話し下さっております。

親から子、子から孫へと、真柱様も代々に亘って私達に子弟の育成の大切さを折に触れお教え下さっております。



▼教祖の役に立つ

話は突然変わりますが、私共の教会では、子供達をどう繋いでいくか、という一つの方法として全部内の少年会員、生まれてから中学3年生までの名簿を全教会から出して頂いております。そしてその子達の誕生日に手作りのバースデー葉書を出さして頂いております。少年会の担当者が必ずメッセージを添えて誕生日に届くように苦心をしております。

ところがそれが中学3年生まででしたので、せつかく名簿があるのに勿体ないやないか、と私が思いました。一昨年から高校生に今度は学担の者が変わりました。高校1年生の誕生日、要するに16歳の誕生日は「来年は別席が運べますね」、17歳の誕生日は「もう別席が運べますね」、18歳の誕生日は「おさづけはいかがでしたか。」と、そういう書き方じゃないですけども、そういうような意味のことを年に1回出すように致しました。それはいつの日か全員が別席を運んでよふぼくなってくれる夢を描いているんです。

また年間の活動としまして、なかなか学生会独自ということはおうちも小さい教会ですのでできませんので、少年会の総会の時の準備・片づけのひのきしんとか、あるいは、模擬店などをしましたときは、そのゲームコーナーの1つを受け持つてもらおうとか、また年末はおぢばにお供えさせて頂きますお餅ですね、そのお餅つきのひのきしんを学生達にしてもらっています。3年前から少しずつですが、「こういうことをしているんだ」ということが学生達の間にもちよつとずつ広まりまして、毎年少しずつ増えてきております。これは教会が自分達の為に何かをしてくれるんじゃないかと、自分達が教会のお役に立つということに喜びをもち、そして勇んでやってくれていると思います。

『メッセージアルはつびすと・from15』これ、先程言いました、15歳ですね。「15歳から」。ここにほとんど書いてありますので、さっと紹介させて頂

きます。

年の始めから「おせちひのきしん」があります。お正月の4日から7日までの3泊4日。冬休みを返上して、遠いところから旅費を使ってまでもおちばに帰って来ます。

見た目は茶髪や金髪。とつてもカラフルで個性的な服装の子もいます。同じように「おせちひのきしん」をしており、おちばの親里・附属・天理高校生と見比べると、派手に見える子が多いように見受けられます。しかし、とつても真面目に一生懸命ひのきしんをしており、

ある高校生に「何でおせちひのきしんに来たの？」と聞きましたら、その子は、「いろいろな年齢の先生方・奥様方とお話しが出来て教えて頂けることがいっぱいだからです」と言いました。

また、夜にお休み行事があります。学担の先生が交代で、短い「ちよつといい話」と称してお話しをするのですが、今まで大騒ぎをしてみんな歌っていたのに、シーンと注目して話に聞き入ります。中には感動して泣いている子もいます。話の後で、泣きながら「教祖を信じます」、「頑張ります」と伝えに来てくれる高校生。そつと一人で「今まで神様が分からなかったけど、今度おせちひのきしんに来て分かり掛けた気がする。帰つても一生懸命頑張ります。ありがとうございました」髪の毛はポマードでとんがってズボン半分脱げそうな男子高校生が言いに来てくれます。みんな私達人から教えを求めに来てくれるのです。

そんな学生達に心を向け、目を向け、そして声掛けをすることです。今ではおせち学生ひのきしん隊は、教内で頼りにされるほど真面目なひのきしん態度で頑張っております。

▼若者達の眼

次に「学修・大学の部」。3月の3日から9日までの1週間。学修・大学の部があります。

大人の大学生達は、大学では聞けない天理教の講義やその話についてのねりあい・おてふり・鳴物・にをいがけの布教実修・神名流し・路傍公園など、みっちりとお道の勉強をするために、すると共に、同世代の仲間達がいることに心を強くし、夜の更けるのも忘れて談じ合い、信仰心を高め合う素晴らしい修養会です。

私は高校・大学共に女子寮の寮長をさせて頂いておりますので、そういう大学生達の純粋な信仰をそのまま伸ばしてあげたい、所属の教会の方々に受け皿をしつかりもって頂きたい、そのように願わせて頂いております。

また3月28日は、「春の学生おちばがえり」です。企画・運営全て大勢の学生達のひのきしんで実行されます。真柱様の「お言葉」を頂戴し、心温まる清々しい式典が執り行われます。大教会長様の御挨拶も学生さんを対象にして頂けますので、どうぞまた来年の春の学生おちばがえり、大勢の方にお帰り頂きますよう御丹精お願い致します。

す。



る子ですよ。

これから読む、これは短い文ですが、この子はお母さんが、学校でも停学中、親も非常に困って、夜中にバイクで走り回っているというようなちよつと困った子なんです。その子のことを相談されました。それで学修に行ったら絶対大丈夫やからと、私はそう言うて勧めたのですが、実際のそのバイクで走り回っているだけではなくて、その中身は遅刻どころの騒ぎじゃない。もう私はもし学修中に問題を起こしたらどうしようと、思ったぐらいの男の子だったので、その教会長さん夫婦と両親が熱心に勧めて下さいまして、本人は仕方なく制服も着ず、筆記具も着替えも持たず、とにかくおちばまで来たんです。嫌なら途中で帰つてもいいからということ、すぐに帰つてくるつもりやったんですね。ところが、2人の男の子と気が合いました、とにかく行くだけ行くこと

かということで参加をしてくださいました。その子の感想ですが、夜中走り回っている子です。

学修に参加して自分が変わったと思うことは、朝早くに起きて生活するという素晴らしさを知りました。規律のよい生活をする、一日の大切さも知りました。学修の友達は、いろんなことを会ったばかりなのに話せて、相談にのってもらったりして、本当に良かった。

たです。学修の生活で困ったことはなかったです。学修の授業では、天理教のことがいろいろと分かり、学校の授業とは一味違い、勉強になりました。カウ



ンセラーさんには本当にお世話になったり、いろいろと相談にのってもらったりして本当に良かったです。よい思い出がつくれてよかったです。

この子のお母さんが手紙を下さいました。

今回参加させて頂くに当たり、教会の皆様にはいろいろとお世話になりました。ごいしました。どうなるかと心配していましたが嘘のように、「楽しかったわあ。僕、来年も生きたいわあ」と帰ってきたときの笑顔が忘れられません。また同時に神様に凭れておちばに行かさせて頂いているのに、何の心配もする必要がないのに、どうして私は心配なんかしたんだろうか。と思うと本当に申し訳のないことだと思えます。この子を通じてもともとと学ばせて頂いていきたいと思えます。本当にお世話になりました。後で聞かせて頂きますと、1週間無事に参加してくれるようにと、両親が教会に日参され、所属の教会長夫妻もある心定めをされ、その子がおぢばで修養出来

るようにと願われていたようです。

送り出す側の姿勢もきつと親神様はお受け取り下さったのだと思います。その後その高校生は、

以前とは少しづつ変わり始めていると聞いております。またその他の2人は、

学修で別席を運びだし、この4月におさづけを頂戴いたしました。

若者達はとつても敏感ですから大人の誠真実は直ぐに見抜きます。どれだけ親や周りの人達が自分達のことに関心を持っていてくれるのか、また育てるために大人自身が成人しようとして努力しているのか、それが分かるのです。それぞれの家庭で、教会で、若者達を受け入れ丹精するのは勿論大切なことですが、おぢばでの行事に参加しておぢばの理を戴き、また真柱様のお声を聞かせて頂くことが出来るように、私達はそういう方向にもしっかりと心に向けていかなければならないと思えます。

▼教えに基づく生き方

平成8年の学生担当者大会にお出まし下さいました前真柱様は「しっかりと学生層を中心として若人達を育てることに心を配る、真剣に取り組み、諦めずにやる、ということをお互いに決めてもらいたい。こどもおぢばがえりも春の集いも学生生徒修養会も力を入れてやらなければならぬ、末代かけての大きな責任問題だと思ふ」と仰せ頂きました。

また、一昨年の年頭の御挨拶におかれましては、

「この若い人達の将来を考えると今すぐに道の御用には間に合わないかもしれない。しかし長い将来を考えると、この人達に掛ける期待をもつて言うならば、どれだけ心を配っても配り切れないほど大切なこの人達は、この子達は宝だと思ふ。それに対して私達は、もつともつと心を配って真つ直ぐに育つ道を誤りなく示唆してやらなければならぬ」とお話し下さいました。

今私達は若い真柱様を戴き、よふぼくがよふぼくとしての御用を担うとは、我が子・理の子も含めての若い人達にしっかりと道を伝えていくことも、世界だけの大きな御用だと信じます。

真柱様は10月大祭におきまして、若い人より早く道を歩いている私達に「先達をもって任ずる方々には、何よりも先ず自分が先達として若い者や周囲の人達の手本となるようにつとめて頂きたい。たとえ一歩でも教祖のひながたに近づくんたという意志・努力をする姿勢が周りに映ることをお考え頂きたい。目の当たりにする生きた手本によって、ひながたの道がより一層身近なものとなり、後に続く者も、また自分も辿ることが出来るんだという意欲が湧いていると思ふ」とお促し下さいました。

お互いに『論達第一号』の中に、教えに基づく生き方をしっかりと心掛けさせて頂いて、大切な御用なんだという意識をしっかりと持って頂いて、後継者育成の上に明るく勇んで歩ませて頂きたいと思えます。

教員おやさと講習会を 受講して

心の養いが身の養いに

福東分教会長 藤井宣人

今回は存命の教祖の直々の元で、有難く受講させて頂きました。受講に先だち心得を一読。その中に「百も承知の話を、『なるほどそうであったなあ』と素直にお聞き取りを頂いて……」云々。

三講師感激の涙を流されつつ親の思いをお話し下された。第一講は、基本教理をわかり易く、第二講は、ひながたの道の体験をもとに自信と勇氣をもつて、うれしい・楽しいと、ひながたの道を通じて欲しいとお話し下された。第三講は、道の命と仰せ下され、末代続く救い一条のつとめとさづけについてお話し下された。続いて練り合い・シンポジウムによって、教会長の悩みの回答をわかり易く進められた。最後に真柱様より「そのものから心わかりてくれ」との親心あふれる有難い直々のお言葉を頂戴致し、甘露台でのおつとめに今後の躍進を誓いました。

以前、或る道の本で、道の先輩に「どうしたら道は活性化しようか」と尋ねた時、その先輩いわく「教会長が年に一回でいいから『おさしづ』を通読したらいい。皆な神様の心がわかつていないから勇めない」と言われ、私は背中をどや

しつけられたような思いがしたと書かれていたのが今日でも印象に残っている。「心の養いが身の養い」と聞かせて頂く。それを養うのが原典である。或る教会より記念祭を前に次の様なおさしづの一端を見せて頂いた事がある。私の日々の心の指針にさせて頂いている。

人間と言ふは一代と思うから頼りない。理は未代。これよう聞き分けてくれ。尽くした理は未代。食べたり見たり着たりするのは、僅か一代の楽しみである。道に尽くした理は、反故にはせん。反故にはならん。又、反故にしてはならん。尽くし切つた理、運び切つた理に楽しみの芽が吹き喜びの花が咲く。難儀不自由の理はない。

このお言葉を日々心の糧として、内においては理づくりとして「つとめ」に専心し、外に向つておさづけの取次ぎに励み、「もくもく」「いそいそ」「にこにこ」「こつこつ」をモットーとして、近づく大教会創立百十周年をめざして、教会らしい教会へ、用木らしい用木への成人を目標に微力ながら努力させて頂く次第です。



最後におさしづを以つて終りとさせて頂きます。

精神一つの理によって一人、万人に向う

合掌

初心にかえる

菅品分教会長 吉岡孝彦

私は第十三次教会長おやさと講習会を受けさせて頂いた。梅雨の最中であつたが、一滴の雨も降らず、外は暑かつたが、会場は冷房で涼しく快適であつた。

私は五月末より約一ヶ月間、修養科教養掛助員としてつとめさせて頂いた。教会に帰ると、数々の身上・事情が私を待っていた。おぢばでのこの講習会でなんとか御守護の手懸りを得たいと、そういう気持ちで受講させて頂いた。

講習会資料には「教会内容の更なる充実を目指し、教会長の役割を改めて確認するとともに世界たすけの使命感を高めることを目的とする」と記されている。内容は、講話・ビデオ・ねり合い・シンポジウム等であつた。中でも私にとっては、特に講話が素晴らしかつた。今迄何度も聞いたお話しであつたが、何故か大変新鮮に感じた。

第一講の山田忠一本部長先生は「教会内容の充実はおつとめとおたすけの実践と、一手一つの団結によつてなされる」と話され、「つとめさいちがハんよふになあたら 天のあたゑもちがう事なし」、教会内容充実の第一はおつとめの完修にある。おつとめの手を揃えてつとめるところに陽気ぐらしは実現する」と強調された。

私は、教祖百年祭を目前にした昭和五十九年教会長の御命を頂いた。おつとめの完修が、全教拳



げての合言葉であった様な感のする時であった。任命講習会で、新任教会長の集いで、おつとめの完修を教会長としての生涯の目標にする様にとお聞かせ頂いた。そのお話に感激し、よし私もやらせて頂くんだと、心に誓った。あれから十七年の年が経った。あの時の心定めは忘れてはいない。しかし、どこか心の片隅に置いてしまっているのが今の私ではないか。大いに反省をした。

私達のねり合いの組の担当の先生から、最後に次の様な話を聞いた。河原町大教会初代深谷源次郎先生は「けっこう源さん」としてよく知られているが、もう一つ「てをどり源さん」と呼ばれていたことはあまり知られていない。私達は、今一度おつとめについて、真剣に考えさせて頂くべきではないかと。

今年は大教会創立という、大教会の出発を思索すべき極めて意義深い年である。この旬に講習会を受講して、私は自らの教会長としての出発点を思い返し、如何に時間がかかろうとも、おつとめの完修への努力を通して、少しでも教会内容の充実につながらせて頂きたいと、改めて決意をさせて頂いた次第です。

布教所長夫妻成人 研修会を受講して

稲倉分教会 稲福布教所長

高島 裕 一郎

この度布教所長夫妻研修会を初めて受けさせて頂きまして、布教所長と言う立場に対しての親の期待の大きさに比べて、自分自身の認識の甘さと成人不足をつくづく感じさせて頂き、「このままではいかんなあ、しつかりせんと。今年残り半年、精一杯つとめさせて頂こう」と、心定めて帰らせて頂きました。

特に各班ごとの練り合いでは、各布教所長さんの、今現在持たれている、おたすけ中の悩み、又、仕事と信仰との両立していく為の悩みに対して、担当先生の自分自身の経験をもとに、一人一人と納得行くまで練り合い、時間が足り無い位の熱いものでした。その中で昨年の秋に布教所長に成ったばかりの私にこれから先、布教所長と言う立場を努めさせて頂くに当たり、上級教会へしつかりと心をつなぎ身をつくし運ばして頂く事が、自分の布教所へつながる、信者さんの成人へと成りにをいがけ・おたすけにおける、事情・身上のうえにも、不思議をお見せ頂ける事と確信いたしました。今まで、気づかぬ内に、自分よがりの信仰

へと成つておつた事が、この研修会で気づかせて頂きまして、私自身大変うれしく思っております。この研修会を機に心新たに、明日より精一杯たすけ一条の道を、まことに遅い足どりでは有りますが、旬に遅れぬ様、親々の思いに少しでも近付かさせて頂く様つとめ切る覚悟で有ります。

この機会をお与え下さった事を、また、懇切丁寧に御指導下さいました諸先生に、お礼申し上げます。

十五ながりの布教所長研修会

國須分教会 国里布教所長

河田 和江

わが家の信仰は私が初代です。私が布教所長となったのは二十四才の時。今年で十五年になりました。この布教所長夫妻成人研修会は以前から参加はしていたのですが、宿泊して初めから終わりまで受講できたのは、今回が初めてです。

私は、長女を妊娠中から、肩や背中に痛みを感じるようになり、医者は妊娠による座骨神経痛だから出産すれば治ると言われ出産。出産後も肩・背中の痛みは治らないまま長男を妊娠、無事出産することができました。

しかし、産後も相変わらず痛みは続き、呼吸困難のような息苦しさを感ずるようになり、他の病院で検査を受けることになりました。検査が進むにつれ、医者や看護婦の言動で、軽い病ではないと直感しました。医者がレントゲンをみて、「右

肺に影がある」と説明してる時、そばの看護婦が「先生、肺ガンでは？」と口をすべらせ、あわてた先生は、「肺の奇形かもしれない？」この病院では手におえないので紹介状を書きますと言われ、さらに大きな病院でも難しいと言われ、心が乱れている時、「私は天理教の信仰者です。手術をする事は、教会の会長様(故橋高キヌヨ様)に相談してから決めます。」と医者に伝え、会長様へ相談に行きました。

私と夫は、この現実とまだ幼い子供のことを考えると涙が止まりません。会長様は、その日から私達夫婦、親族に毎日お仕込み下さり、夫婦に三日間、神様に受取って頂ける理づくりを考え、心を定めて来なさいと言われ、その心定めが、世間並みに身上や事情で苦勞させられる「いんねん」を、お道の上で苦勞しなればいつまで経っても「いんねん」の納消ができないという自覚をもち、生涯人助けの道を通ることを定めて、布教所長に就かせて頂くことでした。心を定めて十五年。一度も医者に診てもらっていないどころか、次女を妊娠、出産というご守護も頂きました。会長様の言葉を神の声として通らせて頂いた十五年間は、まさにいばらの道中でした。

おぢば帰りの団体列車や新幹線の中でも、胸の痛みや呼吸困難は襲ってきまし



声かけを熱心にされていたということでした。私

さんに話を聞くと、会長さんが参加

た。神様の元へ帰るのに「どうして？」と思うと、神様を見失うこともありました。その時主人が「やはり夫婦一緒におぢば帰りしろと言うことかな？」と言ってくれ、おぢば帰日も夫婦揃って帰らせて頂くようになり、その頃から不思議に、あの苦しかった胸肩背中の痛み、呼吸困難がなくなってきました。この身上を通して、神様からのメッセージとして、わが家のいんねんの自覚と夫婦揃って通らせて頂くことの大切さを教えて下さった親神様の厚い親心に有難い気持ちで一杯です。

毎月二十六日には、教祖殿でおさづけを主人が取り次いでくれている道中ですので、以前のこの研修会の受講は、付き添いが要ったり、泊まられなかったり、体調に合わせた受講をしていました。しかし今回は、理の親を亡くし、同時に身の回りに多くのふしを見せられ、暗やみの中のトンネルのあたりが消えたような心境になり、精神的にも落ち込んでいたので、体がついていけない心配配でしたが、すべて受講できたことが、

身上で病んでいた日々を思うと、明かりの見えた研修会でした。昨年まで、若い方の参加

が少なかつた研修会でしたの

に、ある教会の布教所の若い

方の参加者が多いのに驚き、あとでその教会の奥

はその教会の姿を見て、なるほどと思いました。笠岡大教会創立百十周年記念祭も、あとわずかです。..論達“をたよりに思召しにふさわしい円満な家族・夫婦となり、なるほどの布教所をめざし、歩いて、歩いて「尽す、運ぶ」を目標に日々通らせて頂きたいと思っております。



布教

亀田山分教会前会長 高橋 久光

一口に布教と云つても、大きく分けて、三ヶ条に分ける事が出来るのではないのでしょうか。

一つは、自分自身への布教(心のふしん・求道心)、二つ目は、縦の伝道、三つ目が、横への布教(にをいがけ・おたすけ)、ではないでしょうか。勿論、三位一体でなければならぬ事は、申すまでも御座居ません。

現在のお道は、教会も信者家庭も、三代目・四代目を中心を占める迄になって参りました。その中で、信仰の後継者の育成が一番遅れてはいないでしょうか。後継者の育成は、二十年も三十年もかゝる大仕事だと思えます。教会内容の充実は、縦の伝道なくしては、有り得ないと思われま

道の先達としての御用の一つは、自分よりも大きく豊かに成人してくれるよう、二十年も三十年もかけて育て上げて、後顧のうれいなく、立場を譲り、御用の一端を全うしたいものであります。

最近の道の次第は、教勢の低下と云われて居ります。その一因は、求道の欠如。今、たちまち間に合っているからといって、後継者の育成を疎かにして来た事も一因の一つではないでしょうか。

少年会の子供達も、二十年、三十年先には、たすけ一条の御用の上には、働き盛りとして、心のつとめ・身のつとめ・つくし・運びに活躍して居らなければなりません。

信仰の原点は、三原典・ひながたの道・句々に打ち出される真柱様のお言葉だと思えます。

道を通して頂く者一同、向う方向は一つでも、その自身は、独自性に溢れて、親よりも子、子よりも孫と、年限の理と共に、成人の歩みを確かに進めさせて頂きたいと念願して居ります。今日此頃で御座居ます。

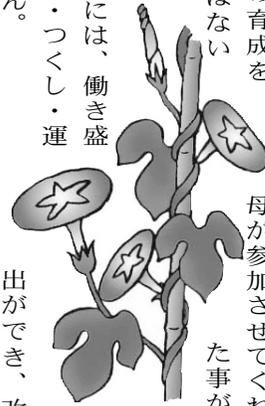
四代目に渡せた道

芦加茂分教会 よふぼく 小川 孝 夫

「天理教」は子供の頃から聞き慣れた言葉であり字である。小学5年生の時、子供団参に出るまでは、私は、天理教は新市にあると思っていた。それが「芦品分教会」である。祖母や母に連れられ

電車に乗って行くのが楽しみだった。地元の友達と天理教の友達と沢山の友達が出来た。

私は長男で兄がいない。天理教へ行くといろんな事を教えてくれる兄ちゃんがいた。食事も皆と一緒に頂く。おなかをはじけるくらい食べたものだ。5年生夏、子供おちば帰り団参があると聞き、母が参加させてくれた。初めての団参、楽しかった事が今も思い出される。兄ちゃん



この二人は私には実の兄の様に思っている。私の理想の兄である。本当に良き思い出ができて、改めて、「ありがとうございます」とお礼を言います。

私には、お道なくては今の私はありません。青年の頃は、家庭に事情があり、色々と親子関係に迷いがあつた時があります。その時、私の前にいつもいて下さった人、それが原コトさんです。色々な悩みの相談の受皿として頂いて本当にありがとうございます。私や皆様の為にも、いつまでも元気で、長寿でいて下さい。お願いします。

私は、結婚が少し遅れて二十八才でした。見合い結婚ですが、紹介者は信仰のない方で、お互い天理教の事はまったく言っていないで、見合いの席で「天理へ野球をしに行くんですよ」と野球の話をしました。相手の母が天理教へ行く様な方だったら話を進めて下さいと言ったそうです。神のお導きといいますが、相手は京城大教会の信

者でした。一番驚いたのは、紹介してもらった私でした。おかげで、信仰のある妻を頂き三代目を継ぐ事が出来ました。子供達も、子供会・おぢば帰りと、妻と共に信仰の道を四代目として一生懸命勤めてくれていきます。長女は先月修養科を卒業して帰って参りました。今、私は幸せです。

笠岡大教会で、よのもと会青年野球大会に参加させて頂き教会関係の友人の輪を広げて頂きました。今は大きな私の財産です。

大教会の屋根改修工事、広島教区の屋根改修工事等の仕事をさせて頂き、親神様は私を道具として使つて下さいまして、本当にありがとうございます。どうか皆様にも私を道具に使っていただきますよう、お願い致します。

最後に私の信念を「出さねば入つて来ない」「道具は使われて道具であり、使われない道具は飾りである」

訂正とお詫び

前号1頁「実践項目集計」の「おさづけ」と「をいげ」との内容が入れ替わっておりまして。また、4頁1段目27行目「k来年は、」は「来年は」の、同2段目「信仰」の9行目「荷台、二代」は「二代」の誤りです。ここに訂正し、お詫びいたします。

六月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎しんで申し上げます

親神様には「いちれつのことものがかへいそれゆへにいろく心つくしきるなり」と変わることに無親心のまにく、永の年限私共を慈しみ育て成人へとお導き下さいまして誠に有難うございます。加えて成人鈍い私共に関わらず決して見放すことなく常に温かくお見守り下さりお育て下さいます。事は誠に有難く勿体ない極みでございます。私共は成つて来る理に多少の戸惑いを感じながらも親心の有り難さを感じて日々朝夕にお礼を申し上げつつたすけ一条の上に勤め励ませて頂いております。その中にも今日の吉日はこれの笠岡の理にお許しく下さいました六月の御祭日でございます。ので只今から梅雨の最中足下の悪い中に関わりませず今日の日を樂しみに寄り集いました道の子供達と相共におつとめ奉仕者一同陽気に喜び勇んで座りづとめ手をつとめて六月の月次祭を執り行わせて頂きます。皆の真実の状を御覽下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

さて本日は先月の学生層育成者講習会に引き続き縦の伝道講習会を開催させて頂きます。これは学生層のみならず道の後継者を育てる為の土台作りとなる活動の徹底を計るものです。お話し頂く一つ一つをしっかりと心に治めて子供おぢば帰りを芯とした活動に実動を以て応えて行く所存でございます。又今月二十三・二十四の両日に亘つて布教所長夫妻成人研修会を開催させて頂きお互いよふぼくの中よふぼくである事の自覚を高めて実動の上に邁進させて頂く所存でございます。そして同日婦人会女子青年部がこかん様に続く会を開催して道の台としての人となるべく伏せ込みをさせて頂きます。

更には又創立百十周年の本年もあと半年となった今日創立百十周年に向けての実動により一層拍車をかけると共に年頭の心定めをしっかりと見据えて完遂への思いを新たにしこれまで以上にたすけ一条に邁進させて頂く覚悟でございます。

何卒親神様には時旬の理に添うて実動で応える皆の真実誠の心をお受け取り下さいまして万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り我が身思案で荒みがちな人々の心を助け合う陽気づくめの心へと立て替えて下さいましてお望み下さる陽気ぐらしの世の状へと一日も早くお導き下さいますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます。

ふたこと みいり

“火と水とは一の神”と、子供の頃からよく聞かされたが、何のことやらよく分らなかつた。そして今、火水風の御守護が骨身にしみいる。ところが、水の惑星といわれる地球がおかしくなってきた。一体どうおかしいのか。

中東のチグリス・ユーフラテス川が合流する地点に広がる大湿地帯の、九十%が消滅しているという。世界最古の都市シュメール王ギルガメシの叙事詩の中には、「ノアの箱船」の原形となるような物語がすでになる。「バベルの塔」「懸空庭園」「大きな町」「ネベ」など、建造物や都市の跡が発掘されている。これ程の文明が生れたのも、チグリス・ユーフラテスという二大川のおかげである。

今回の大湿地帯の消失は、二四十年程の間に三十以上のダムが建設されたり、一九九〇年代にイラクが進めた排水設備整備が原因とみられるという。原油には困らない中東の水には苦労している。水飢饉が起れば日本も対岸の火事ではすまなくなる。

同じ三大文明の一つ、黄河でも水不足が伝えられている。二十一世紀は水の戦争になるといわれている。水の惑星のキーワードが水対策という笑えない話になりそうだ。

親神様がお与え下された地球という惑星の水を、私達は本当に大切に使用しているだろうか。日本は水に恵まれすぎている。それ故にありがたさが麻痺している。“水を飲めば水の味がする”とのお言葉を、今一度、私達は足元からみつめ直さねばならないと思う。

第 7 2 5 期 修 養 科 募 集 要 項

*** 修養科期間**

立教164年9月1日～11月27日

*** 教 養 掛**

3ヶ月間	森 本 忠 平	(大教会役員・海松ヶ岡分教会長)
1ヶ月目	三 島 順 教	(葦 沼 分教会長)
2ヶ月目	枝 廣 隆 文	(東福山分教会長)
3ヶ月目	掛 谷 富 子	(坪 生 分教会長)

*** 募集要項**

- ・志願者は、9月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を経由して大教会に順序参拝すること。
- ・8月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、11月29日の昼食後に解散。

*** 教 科 書 (必須)**

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふぼく手帳』。

*** 参 考 書 (出来れば持参)**

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

*** 携 行 品**

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

*** 服 装**

ハッピー及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

書 類	大教会	詰所	備 考
「順序参拝票」	○	○	
「別 席 願」	○	○	・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。
「席 札」		○	
「別席のしおり」	○	○	・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		・おさづけの理拝戴願の順序参拝も合せて行なう。
本 部 御供		○	
「おさづけの理拝戴願」	○	○	・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後におさづけの理を拝戴する者のみ。
「おはなし」	○		
大教会 御供	○		・願書に日付を入れない事。
本 部 御供		○	
「修養科入学願」		○	・御供は任意であるが、慣例により、200円以上。
「修養科入学事由書」		○	
修養科入学御供	○		
「住民票」または「戸籍抄本」		○	・「戸籍記載事項証明書」、「身分証明書」でもよい。

英語講習会	期 間	8月6日(月)午前10時受付 ～8日(水)午後2時頃解散。
	受講対象	中学1年生以上、高校生、大学生、一般。
	受講御供	2,500円。
	持参品	英和・和英辞典、筆記具、着替え、洗面具。
	プログラム	★パソコンを使った英語の学習 ★英会話 ★おつとめ ★レクチャー ★ひのきしん
お問合せ	詳細はスタッフの 香取雅人 ☎(086-528-0850)、 吉岡誠一郎 ☎(086-282-0550) までお尋ね下さい。 (★連絡下さればJR大門駅まで送迎します)	

教会別人づくり一覽表 (立教164年1月1日より 立教164年6月30日まで)

名 称	初	授	修	講前	講後	名 称	初	授	修	講前	講後	名 称	初	授	修	講前	講後	
笠福高神島久鶴弥高陽摩金興ひろさ陶芳呉海東吸照輝新些明上府東服島驛油葦湯備神美錦廣福福福福福西福引福福	岡	9	3			福中土東山南順節備輝	1	2				龜田山津	5	2	2			
	山	2				富						出雲川						
	屋	3	1	1		福	1					天						
	邊					福	1	1				簸						
	根	1		2	1	福						多			1	2		
	松		1	1		福						瑞						
	山	2				福	1					雲		1				
	山	4		1		福	2					神						
	備					福						吳						
	耶	1				坪	2					大					2	
	浦					八	1					品						
	明					深	1					久				1		
	と	1				笠	2	1	1			久						1
	山					芦	1					呉						
	井					安	1					鶴						
	照	2	3			芦	1					川						1
	岡					三	1		1			島						
	悠					芦	1	2				川						
	江					加	1			1		鴨						
	陽	1	1	1		加	6	3				作						
	濃					地	1					輝						
	邑			1		香						錦						
	部	3	2		1	真	1					行						
	市					仲	2					眞						
	下					稻	6			1		吉						
	市					稻	2	2				清						
	城					富	1	1	1			上						
	部					司	1	1	1			木						
	中		1			門	4					國						
	家					大	1					上						
	木					東	1					上						
	陽	1				高	1					河						
	原					出						上						
	中					瑞						甲						
	昭					海						上						
	郷					錦						阿						
	備	1	1			米	1			1		宇						
						弓						河						
						西						府						
						米						府						
						伯						府						
						美						世						
						仙						神						
						雲						神						
						伯						葦						
						都						合						
						島						計						
													89	32	28	8	4	



8月26日(日) 本部月次祭直後(教祖殿・祖霊殿礼拝後)、各教会より配布のハンカチ(団参記念品)を同封の安全ピンで左肩に留め、西礼拝場にご集合ください。大教会長様を芯に、おつとめをつとめさせていただきます。